



# 家庭通信 3月号

2025年2月28日  
学校法人 織田学園  
おだ認定こども園

春の訪れを感じ陽だまりの中で遊ぶ子どもたちは、さっそく水を運び、どろどろの土の感触を楽しみ始め、汚れを気にせず思うままに遊ぶ姿に、たくましさを感じています。今年度最後の家庭通信です。この一年間子どもたちは様々な経験を通して心と体が大きく育ちました。特に、心の成長には目を見張るものがありました。「心の育ち」は本来目に見えないことですが、近くで一緒に生活してきた保護者の方々や職員は、心の育ちを日々感じ取っています。例えば、困難なことがあると、すぐ諦めていた子が、何度かチャレンジできるようになって、根気が出てきたり、言語化できないが一生懸命グズグズして何かを伝えようとしていた子どもが、色々な表現方法を身につけていつの間にか機嫌の良い時間が長くなったり、言葉で伝える事ができるようになったり、一年間かけて同じ環境の中で規則正しい生活を営むことで、見通しが立つようになり、安心して心が育って行動に変容がでてきているのです。子どもたちが自ら育とうとしている素晴らしいその能力と出会い、嬉しい瞬間に沢山出会わせてもらいました。一つの区切りの時期である今月、子どもたちの成長をしみじみ感じながら過ごしたいと思っています。

さて、一年を振り返ってみると子育て中つい自分の願いが強すぎて、「こうして欲しい」「こうなって欲しい」「なんでできないの」と憤りを感じることはありませんでしたか。私の子育てで奮闘中には子どもを所有物のように感じていたころがあり、我が子と自分の境が見えなくなってしまう時期がありました。そんな中に出会ったハリール・ジブラーン「預言者」の中の「子について」という詩は、私の子育ての根源を見直すきっかけとなり、今でも言葉の一つ一つを大事にしています。年度末にこの詩を皆様と共有させていただきたいと思い、全文をご紹介できないので、ここにその一節をご紹介します。以下の言葉に心が動いたら是非全文を読んでみてください。

## 「子について」

あなたがたの子どもたちは あなたがたのものではない 彼らはいのちそのもの あこがれの息子や娘である

彼らはあなた方を通じて生まれて来るけれど あなた方から生じたものではない ～略

あなたがたは彼らに愛情を与えるが、あなたがたの考えを与えることはできない

なぜなら彼らは自分自身の考えを持っているから あなたがたは彼らのからだを宿すことはできるが 彼らの魂を宿すことはできない ～略

## 【感謝】

3月16日は第59回卒園式を行い60名の子どもたちが卒園します。一年間こども園の様々な場面において、皆さまが見守ってくださっていたこと、ご協力に感謝いたします。今後も園と保護者の方々、地域の方との連携を取りながら、より良い環境作りに努めてまいります。来年度もよろしくご願ひ致します。

## 3月のねらい

### <年長組>

- ・友だちと関わり合いながら、自分の力を発揮し、遊びや生活を進めていくことを楽しむ。
- ・友だちと互いの良さを認め合いながら園生活を楽しむ
- ・園生活の様々な遊びや活動を通して自信をつけ就学に向けて期待を持つ。

### <年中組>

- ・進級することに期待を持ち、進んで活動に参加しながら園生活を楽しむ。
- ・いろいろな友達と関わったり、遊んだりすることを楽しむ。
- ・集団で心地良く生活する為の基本的な習慣や態度が分かり、自分から行おうとする。

### <年少>

- ・保育者や友達と関わる中で、お互いの思いを言葉で伝え合おうとする。
- ・保育者や友達と一緒に園庭や散歩に出掛け、春の訪れに気づく。
- ・進級への喜びや期待を持つ。

### <2歳児>

- ・異年齢児と関わったり、できることが増えたことを知る中で大きくなったことを感じ保育者や周りの子と一緒に喜ぶ。
- ・戸外で遊ぶ中で保育者と一緒に春の訪れを感じたり見つけたりすることを楽しむ。

### <1歳児><0歳児>

0.1歳児は個別のねらいを立てています。